



「平成 28 年農業機械業界新年交礼会」の挨拶をする青柳・北農工会長



乾杯の発声をする土谷・北農工副会長

# 工 農 北 新年交礼会を開催 農業のイノベーション担う

一般社団法人北海道農

業機械工業会（青柳稔会  
長）は21日午後、札幌市  
内の札幌全日空ホテルに  
おいて、毎年恒例の「農  
機業界新年交礼会」と  
「新春特別講演会」を開  
催した。

同ホテル24階の白楊の  
間で開催された「新春特  
別講演会」では、管理栄  
養士／美容栄養カウンセ  
ラー／料理研究家／若返  
りプロデューサーの上坂  
マチコ氏が、「元気を保  
つ食の知識」を演題にし

て講演を行った。

上坂氏は、食の知識を  
知ることにより、毎日の  
食事内容が変わり、健康  
な身体となることが重要  
であるとし、「健康寿命  
を延ばすことが課題」、  
「老化予防は『食事』が  
大きな鍵!」、 「長寿遺  
伝子にスイッチオン!」、  
「老化の原因『酸化』」、  
「老化の原因『糖化』」、  
「たんぱく質はしっかり  
」「腸』を整えると元気

は『朝』で決まる!」、  
「『腸』を整えると元気



あいさつする青柳会長

!』といった幅広い話題  
に関して話したことか  
ら、好評であった。

続いて23階の白樺の間  
で開かれた「農業機械業  
界新年交礼会（主催＝北  
農工、北海道農機商業協  
同組合、十勝農業機械協  
議会）」の冒頭、主催者  
として挨拶に立った青柳  
会長は、まず初めに関係  
者に謝意を示した後に、

「ノーベル賞受賞や基礎工  
事データ改竄といった明  
と暗の昨年の社会的に大  
きな出来事を振り返り、  
本田農機工業の創業80周  
年と、土谷令次氏（土谷  
製作所会長）の旭日双光  
章（産業振興功労）受章  
の北農工としての慶事を  
報告した。

その上で、PPP交渉  
の大筋合意がなされたこ  
とに関し、農政の動向な  
どに触れ、「道内の農家

戸数は4万戸に半減し、  
経営規模は1・8倍に拡  
大したが、農家戸数の減  
少に伴い、道内の農機市  
場の縮小は避けられない  
現実である。一方で、農  
業機械は、これまで北海  
道農業のイノベーション  
の一端を担ってきた。そ  
の役割はこれからも変わ  
ることなく、農業現場か  
らは常にイノベーション  
を求め続けられる。この  
市場開拓とイノベーショ  
ンという大きな目標に向  
かい、北海道農業機械工  
業会は、国、道、並びに  
関係諸機関と連携を図り  
ながら、会員とともに歩  
みたいと考えている。本  
年も関係団体、会員の更  
なる支援をお願いする一  
などど力強く述べ、今年  
の飛躍を誓った。

続いて、来賓として、  
経済産業省北海道経済産  
業局地域経済部長の寒川  
卓知氏が「今年は、皆様  
経済が発展して欲しい。  
北海道は回復基調にあ  
り、その中で、ビジネス  
が動き始め、いよいよ3  
月26日には新幹線がやっ  
て来るので、皆様ととも  
に発展していけるような  
一年としていきたい」な  
どと、道経済部産業振興  
局産業振興課長の三橋剛  
氏が「本道のものづくり  
産業の状況をみると、製  
造品出荷額は、5年連続

して増加している。北海  
道経済を牽引している基  
幹産業の一つと位置付け  
られるようになってお  
り、大きな期待が寄せら  
れている」などとそれぞ  
れ挨拶した。

その後、経産省道経産  
局、北海道、道総研道立  
農・工試、ホクレンとい  
った来賓の紹介に続け  
て、同工業会の土谷令次  
副会長の乾杯により懇親  
に移り、十勝農業機械協  
議会の山田政功会長が閉  
会の挨拶を行った。

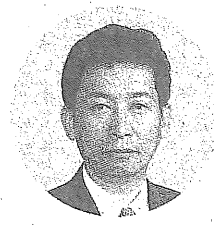


「食」に関して幅広い内容が話された新春特別講演会

農経しんぼう  
2016年1月25日号  
(第1面)

# 北農工などが主催

## 農機業界の新年交礼会



青柳北農工会長

北海道農業機械工業会、北海道農機商業協同組合、十勝農業機械協議会主催による「平成28年農業機械業界新年交礼会」が21日、札幌全日空

ホテルで開催された。主催者挨拶には北海道農業機械工業会の青柳総会長が挨拶。「昨年を振り返ると、当会において

は本田農機工業が創業80周年を迎え、土谷製作所の土谷令次会長が旭日双光章の受章、また、日農機製工が第16回農業食料工学会北海道支部賞を受賞するなど目覚ましい活躍

を見た。道内の農家戸数はここ20年間で約4万戸に半減したが、経営規模は1・8倍に拡大している。農業機械はこれまで北海道のインベシヨンの一端を担ってきた。その役割は変わることなく、農業現場から常にインベシヨンを求め続けられている。市場開拓とインベシ

ョンという大きな目標に向かい、関係諸機関と連携を図りながら会員の皆様と共に歩んできた」と述べた。来賓挨拶では経済産業省北海道経済産業局地域経済部長の寒川卓知氏が、1000億円を超え、エネ補助金などを含め成立した補正予算を紹介し、「さまざまな施策を投入するので、未来に向けた設備や技術、人へ投資いたしたい」と述べた。北海道経済部産業振興局産業振興課長の三橋剛氏も、サンエイ工業が「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に選ばれたことを上げ、会員企業の長年の機械開発に対する取組みに敬意を表した。これに先立ち、フリーランスの管理栄養士として活躍中の上坂マチコ氏による「元気を保つ食の知識」を演題にした新春特別講演会が行われた。

農村ニュース  
2016年1月25日号  
(第1面)

北農  
エ 新年交礼会、特別講演会を開催

国内、イノベーションで  
貢献

海外、新市場を開拓

（二社）北海道農業機械工業会は21日、平成28年農業機械業界新年交礼会並びに新春特別講演会を札幌全日空ホテルで開催した。



青柳会長

冒頭、青柳会長が挨拶し「昨年は明暗分かれる話題のある年となった

が、その教訓として『ものづくりの原点は「まかさないうこと」を教えること』を教えた。TPP交渉の大筋に農業者は、次世代担い手の育成、産地イノベーションの促進、畜産酪農収益力強化の施策が示された。中小企業総合対策本部を設置。安価な輸入品との競争にさらされる農業の強化策を中心とした総合政

示された。道内の農家戸数は20年で4万戸に半減し、規模は1.8倍になった。道内の農機市場の縮小は避けられない。農機は北海道農業のイノベーションの一端を担う事に加えて新市場開拓を行わなければならない。この2つの目標に向かい、

国・道、関係諸機関と連携を取りながら、着実に歩んでいきたい」と述べた。

続いて来賓挨拶として北海道経産局の寒川卓知

地域経済部長が「今年の新幹線がやってくる。皆様と共にうまく活用し発



乾杯後、積極的な交流がなされた。三橋剛産業振興課長が「道内の製造品

展していきける年にしたい。TPPをチャンスに変え、イノベーションで成長を実現する社会を構築したい。今年の変化の年であり挑戦がキーワード。北海道ブランドの国内外での販売展開への挑戦にはものづくり産業の育成や一次産業や観光の拡充が必須だ。その点、農業の実態を知り尽くした皆様のポジションは重要だ。豊富な知見と優れた技術で新たな農業の飛躍にご貢献頂きたい」と述べた。

出荷額が5年連続伸びで直近では過去最高だ。TPPも決まり農業の競争力強化は益々求められる。基幹産業である農業機械はものづくり産業の発展のお手伝いをしたい」と述べた。

講演し、健康寿命を伸ばすための秘訣として①長寿遺伝子のスイッチON②活性酸素対策の抗酸化食品の摂取③糖化を防ぐ炭水化物の過剰摂取の回避や食べ順④タンパク質の摂取⑤良い油の摂取⑥野菜の摂取⑦水分補給⑧朝と夜の過ごし方⑨腸内環境正常化を心がけ、美味しく楽しく衣食住を大切にすることが重要だと述べた。

農機新聞  
2016年1月26日号  
(第3面)

◎市場開拓とイノベーションへ決意新たに

(北農工が農業機械業界新年交礼会を開催)

道農業機械工業会(青柳稔会長)は22日、平成28年農業機械業界新年交礼会を札幌全日空ホテルで開催し、道内農業メーカーや関係機関・団体から約60人が出席した。青柳会長はあいさつで「農業現場からは常にイノベーションが求められ続けている。市場開拓とイノベーションという大きな目標に向かい、国・道ならびに関係諸機関と連携を図りながら歩んでいきたい」と、道農業に対する業界の役割を強調しつつ、新たな決意を示した。併せて開催された新春特別講演会では、管理栄養士の上坂マチコ氏が「元気を保つ食の知識」をテーマに講演した。

主催者あいさつで青柳会長は、業界にかかわる昨年の出来事を振り返り、「国産初のジェット機MRJの初飛行はものづくり国を自任するわが国を奮い立たせる出来事であった」と国内機械工業界の快挙を喜ぶ一方で、フォルクスワーゲン社製ディーゼルエンジンの燃費データねつ造に関する「ものづくり先進国と言われるドイツのトップ企業がこのような不正に手を染めていたことに大きな衝撃を受けた。ものづくりの原点はごまかさないことであり、原点を見失ってまでしたことの重大さをあらためて私たちに教えてくれた」と語った。また、会員である本田農機工業(株)の創業80周年、(株)土谷製作所の土谷令次会長の旭日双光章受章に祝



辞を述べたほか、道内の農業機械市場の動向に触れ、「道内の農家戸数はここ20年間で約4万戸に半減した。経営規模は1・8倍に拡大し、この農家戸数の減少に伴う道内の農業機械市場の縮小は避けられない事実である。一方で農業機械はこれまで北海道農業のイノベーションの一端を担ってきており、その役割はこれからも変わることない」と語り、今後も関係諸機関・団体と協力しながら、市場開拓とイノベーションを図っていく決意を示した。

「食」をテーマにした新春特別講演会では、「お食事のカウンセリングサロンc o l a n」主宰でテレビ、新聞、雑誌などフリーランスの管理栄養士として活躍している上坂マチコ氏が「食べることはお腹が減るためや生きていくためである。食の大切さを学ぶことによって、日々の食事内容が変わってくる。それが健康につながってくる」と述べ、健康は食を通じて手に入ると呼び掛けた。また、毎日朝食は必ず取る、遅い時間の食事は避ける、ゆっくりよく噛んで食べるなど、上手な食事の取り方を紹介。「食に興味を持つことで、健康はもちろんのこと老化予防にもなる。楽しい、おいしいと思つて食べることで心が豊かになり健康へとつながる」と語った。

(浦 諒武)